

■ 学年末考査に向けて

3月3日(月)～6日(木)まで学年末考査が実施されます。2週間を切りましたので、少しずつ計画的に学習を進めていきましょう。定期考査のたびに記載していますが、3年生になってから、特に指定校制や公募制などの推薦入試で大学等への進学を考える場合、「評定平均値」はとても大切な数字になります。例年、希望する大学等の基準となる評定平均値に達しなくて、推薦入試での進学をあきらめざるを得ない人が出ています。特に2年生にとっては、3年生になる前の最後の定期考査となりますので、どちらにしても影響はあまり大きくないかもしれませんが、最後までしっかりがんばりましょう。1年生も3年生になってから後悔しなくて済むよう、1年次最後の学年末考査はもちろん、2年生になってからも毎回がんばっていきましょう。



■ 大学入学共通テストの平均点

1月18日(土)～19日(日)に実施された大学入学共通テストの本試験の平均点(最終集計)を以下に示します。得点調整は特になく、文系・理系いずれも平均点が上昇したようです。1・2年生のみなさんで大学入学共通テストを利用しての進学を考えている人は、自分の志望校に対して、どの程度の得点を確保しておかなければならないかも含めて、確認しておくようにしましょう。なお、ここに示した平均点には旧課程のものは含みません。



2月4日(火)にBLENDで大学入学共通テストの本校としての問題講評も配信しています。併せて参考にし、今後の学習に活かしてほしいと思います。

科目名	国語(200)	地理総合、地理探求(100)	歴史総合、日本史探求(100)	歴史総合、世界史探求(100)	公共、倫理(100)
平均点	126.67	57.48	56.99	66.12	59.74
科目名	公共、政治・経済(100)	数学Ⅰ、数学A(100)	数学Ⅰ(100)	数学Ⅱ、数学B、数学C(100)	物理基礎(50)
平均点	62.66	53.51	28.08	51.56	24.78
科目名	化学基礎(50)	生物基礎(50)	地学基礎(50)	物理(100)	化学(100)
平均点	27.00	31.39	34.49	58.96	45.34
科目名	生物(100)	地学(100)	リーディング(100)	リスニング(100)	情報Ⅰ(100)
平均点	52.21	41.64	57.69	61.31	69.26

■合格体験記

3年生の合格体験記です。今回は専修大学に合格した椎橋拓深さん（3年5組）と茨城キリスト教大学に合格した松本心優さん（3年4組）です。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 椎橋拓深君（3年5組）

専修大学経営学部ビジネスデザイン学科（指定校推薦）

私は専修大学経営学部合格することができました。私は部活動が忙しい中でも日々の授業に集中して取り組み、少しでも質の高いノートの取り方をするなど自分自身で工夫したり、遠征の移動の中でもテスト勉強を行ったりしました。また、寮生活をしてきたため、周りの人たちに教えるというようなアウトプットする機会にも恵まれるなど、学習事項に対してより理解を深めていくことができました。自分の成績がこれからの進路を左右するので、テスト前の勉強だけでなく日々の授業やすき間時間の使い方の工夫が大切です。



入試では、5~6人のグループに分かれて身近な経営学についてのグループディスカッションを行いました。色々な先生方と面接練習を行い、グループディスカッションの対策を練っていたので、その成果が発揮できたと思います。グループディスカッションでは他人が出した意見に対して質問したり、共感したりして瞬発的に発言できるようにしておくことが特に大切だと感じました。

専修大学は評定平均値のハードルが高いので、指定校推薦で進学を希望する人は1年生の時からしっかりと授業や定期考査に臨むように心がけてください。

【合格体験記】 松本心優さん（3年4組）

茨城キリスト教大学文学部児童教育学科児童教育コース
（総合型）

私は、小学校教師になりたいという夢を叶えるべく、茨城キリスト教大学の文学部児童教育学科児童教育コースを総合型選抜で受験し合格を頂きました。

なぜ茨城キリスト教大学を総合型選抜での受験を決めたかということ、自分の理想の教師になるためには、この大学で学ぶことが必要だということを大学側に自分の口で説明したいと思ったからです。

（次ページに続く）

試験では事前に提出した課題図書 요약や学校教育との関連についての作文、志望理由書をもとに面接が行われました。面接では夢を叶えるためにやってきたことを中心に話しました。自分がやってきたことをすべて話そうとするのではなく、一つ一つに注力し「どういう気持ちで取り組んだのか」「どういう成果を得られたのか」が伝わるように工夫しました。その結果、面接官の方が夢実現のための努力を認めてくださり直接褒めて頂きました。



私はこの受験を通して、志望校選びの大切さを学びました。パンフレットで大学の特性を知ること大切ですが、オープンキャンパスに参加して実際の雰囲気を感じることも必要だと思いました。そうすることで、入学後に思っていた大学生活と違ったりして、学ぶことへのモチベーションを低下させることを防げます。また、オープンキャンパスに参加することで、現役の学生の方に疑問に思ったことを直接聞くこともできます。私は1年生の夏頃から計7回参加しました。回数を重ねるごとに大学の魅力を肌で感じるようになり、顔見知りになった大学の先生や現役の学生の方が増えることで、受験のポイントを教えて頂けたりするなど良いことがたくさんありました。

最後に、志望校の選定から受験形態の相談、志望理由書のアドバイス、面接練習までたくさんの人の力を借り結果を实らせることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。これから受験を迎える後輩のみなさんも早めの対策を心がけ、悔いの残らない高校生活を送ってほしいと思います。大学に入学してから立派な教師になれるよう努力していきたいです。

■ 入学する大学への手続きを忘れないように！

3年生で入学予定の大学への所定の手続きを期日までに行わず、大学側から連絡が来たという生徒がいました。この生徒は寮生で、寮に書類が届いていたことに気づかなかったそうです。親切な大学で、連絡を実家の方にくんだり、期日を過ぎても待っていただけましたが、場合によっては、入学ができないということも考えられるケースです。1・2年生のみなさん、そのようなことがないように十分に注意しましょう。

なお、大学側に提出する書類の中には、保護者の署名が必要な箇所があったり、保護者と相談しないと難しく本人だけでは対応できない内容も見られたりするなど、早めの対応が求められると感じました。学年集会などでも進路指導部からいろいろと注意をしてくれていましたが、本人の自覚がないと難しい部分もあります。自分の人生にも大きく影響しますし、何よりも多くの方に迷惑を掛けてしまいます。そのことをよく理解しておきましょう。

■ 田中将大投手の話



プロ野球、東北楽天ゴールデンイーグルスやメジャーリーグのニューヨーク・ヤンキースで活躍した田中将大（たなか・まさひろ）投手が読売巨人軍に移籍しました。昨シーズンは故障に泣き、プロ野球選手になって初めての勝利なしに終わり、東北楽天ゴールデンイーグルスを自由契約になっていました。

田中投手というと、2006年の高校3年生の時の夏の甲子園の決勝戦が思い出されます。田中投手が在籍した駒澤大学附属苫小牧高校と、「ハンカチ王子」として注目された斎藤佑樹投手を中心とする早稲田実業学校高等部の対決は引き分け再試合となり、翌日に行われた再試合も4対3の接戦で早稲田実業学校高等部が勝利を収めました。田中投手と斎藤投手の投げ合いは「どちらにも勝たせたい」と思わせるほどの死闘でした。

高校卒業後、田中投手はドラフト1位で東北楽天ゴールデンイーグルスに入団し、斎藤投手は早稲田大学を経て北海道日本ハムファイターズに入団しました。高校での対決では斎藤投手に軍配が上がりましたが、「プロに入ってから田中投手が活躍するだろう」と予想した人は多かったと思います。実際、田中投手は1年目から11勝を挙げ、チームの中心として活躍したのに対して、斎藤投手はプロ野球選手としては花開かずに引退した印象があります。

田中投手は、2011年3月11日の東日本大震災後の2013年のシーズンには、開幕から24連勝と負けなしで、前年のシーズン後半の4連勝を含め28連勝と大活躍。さらに、ポストシーズンの2勝を含め30連勝とし、ギネス世界記録として認定されました。このシーズンはチームもパ・リーグを制し、クライマックスシリーズも通過。読売巨人軍と日本一を争いましたが、見事優勝を果たしました。東日本大震災で厳しい状況に置かれていた東北地方のファンにとっては、願ってもない明るいニュースとなりました。

個人としてはシーズン負けなしでチームも日本一と最高のシーズンを送った翌年、田中投手はメジャーリーグに挑戦します。在籍チームは名門ニューヨーク・ヤンキース。1年目から13勝を挙げ、7年間在籍しメジャーリーグ通算78勝と安定した成績を残しました。しかし、7年目のシーズンオフにフリーエージェント（FA）となり、古巣の東北楽天ゴールデンイーグルスが獲得を発表し、日本球界に復帰することになります。

日本球界に復帰した後は、負け越しが続き、2013年のシーズンのような絶対的な存在ではなくなりましたが、読売巨人軍に移籍する今シーズンは、新たな環境に燃えているようです。日米通算200勝にあと3勝と迫っていますが、「3勝で終わるつもりはない」と明言していますし、小学校時代に同じチームでバッテリーを組んでいたという坂本勇人選手もチームメイトとして在籍していることから、新たな道が開ける可能性があるかと期待しています（※小学校時代は坂本選手がピッチャーで田中投手がキャッチャーでした）。長年、読売巨人軍の投手陣の支柱であった菅野智之投手がメジャーリーグに挑戦したこともあり、投手陣の精神的支柱になることも期待されています。筆者は田中投手の再起に期待したいと思っています。 文責：清水聖（進路指導主事）